

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第89回 ●

■ 新名人誕生

ご承知の通り、中山新名人が誕生した。今回の挑戦手合いは理事会開催の裏で行われた局があったので、久々に直接見ることができた。対局の内容もそうだが、対局風景が昔とはかなり異なっていたのでそれをご紹介しよう。

● 連珠女子？

理事会の日がちょうど挑戦手合い第2局に重なったので、久しぶりに見ることでできた。だが、観戦の雰囲気は少し違う。あれ？と思つてよく見ると、女性の姿がちらほら。東京連珠会に新加入された方かと思つたが、そうでもなさそうなのが感じである。じゃあ中山君の知り合いかな？ぐらいい感じていたが、その日は時

間がなく現場を後にした。第4局もまたま臨時理事会が行くことができた。すると、前回と同じ方が来られており、しかも、人数が増えてきている。どうやら話を聞くと、純粋に連珠を観戦しに来られているようである。いわゆる「連珠女子？」とも言うのであろうか。これもインターネットの発達と、昨今のSNSブームのおかげであろうか。よく考えてみると、競技人口が少ないがゆえに、名人と直接話ができる競技は珍しいだろう。いつの日か先見の明があつたと喜ばれることを願っている。また、告知のおかげで近所にお住いのご夫婦も観戦に来られており、意外な形での普及が進んでいるようだ。

● 藤田麻衣子さん

もう一つ変わった点と言えば、元女流棋士である藤田麻衣子さんの存在である

う。カフェ「いっぷく」では連珠盤が置いてあり、側面でも連珠界を支援してもらっている。女流棋士ならのはのアドバイスも多くいただいており、挑戦手合いやA級リーグを盛り上げてもらっている。最近では東京連珠会にも積極的に参加いただいており、これから新たな核の存在になっていただけるものと期待している。

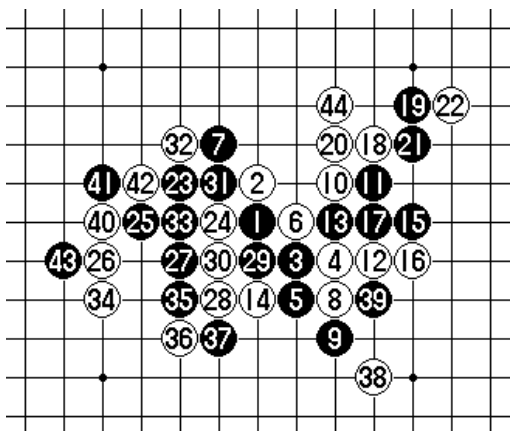
● インターネットTV

さらに、挑戦手合いではインターネットTVの放送（解説）を流していた。以前に岡部君や神谷君の解説を見ていたが、実際見てみると案外簡単に番組が作られていると感じた。第4局では私も飛び入りで解説に参加させてもらい、第32期名人戦の第5局を解説したりもした。なるほど、これはこれで快感であり、時間が許せば今後も参加させてもらいたいと思つた。しかし何より、解説される側の

立場に立つことがやっぱりいい。新たなモチベーションとなった。

● 第2局

さて、前置きが長くなつたが、私がいかに見た2局を順にご紹介しよう。まずは第2局。今シリーズの流れを決めた一局である。



中村名人の仮先で始まつたが、丘月に白4！とはさすがに四珠交替打ちだけはある。中村名人が黒を持つて八題を指定したが、この5は残月共通の難型に戻る

ので、指定したくはない。溪月共通に戻る手もあつただろうが、中山君の懐に入つてこそ活路が開かれるという中村名人の勝負勘なのだろう。

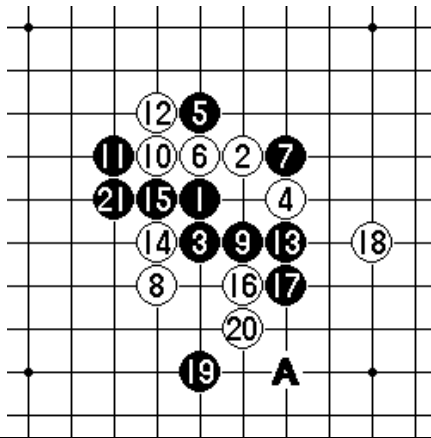
黒11までは定型だが、白12が「最近はこの打つのか」という一手。黒15は反対から叩くのかと思つていたらこつちだった。これも中山君の読みを外そうとした一手だろうか。

ただ、黒23と打つたあたりでは、名人には自信があつたのではないだろうか。しかし、中山君の防ぎも的確だった。白28、30がコンビネーションの防ぎで、何となく黒が焦らされている感じがする。まるで中村氏の防ぎを見ているようだ。それも相まつてか、黒の攻めが中村氏らしくない。黒43まで後手を引き、剣先を残されたまま白44と打たれては、流れが悪すぎる。以下白に押し切られてしま

つた。

●第4局

続いて最終局となった第4局。前述のようにインターネットTVで解説もしたので、少々詳しく印象を述べてみたい。



銀月白4と打つて八題は、関西でもよく打たれている。中山君はこの白4は予想外だったようだ。この黒5は一見良さそうに見えるが、実はあまり良くない。と言うのも、黒7で反対の10に打てないからである。必然的に黒7に打たなければなら

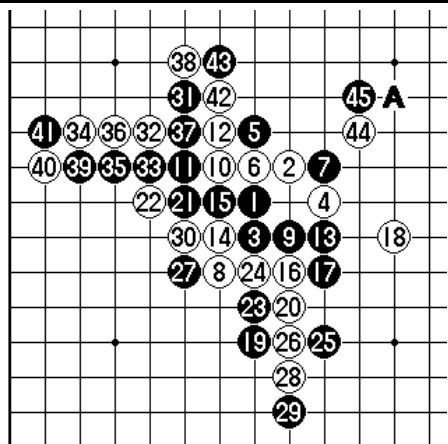
らず、白の模様に入っていくのがいかにも混戦になるからである。対して白8の防ぎなど、いかにも中村名人の手という感じがする。戻つて、黒5の代わりに候補になかった10と打つのが良いだろう。

黒9もあまり良い感じがせず、白16まであつという間に引き詰まった感じがする。白20までが午前中の進行で、私が見たのもここからである。

昼食休憩後に打たれた黒21が衝撃の一手だった。黒かなり不利を自覚しているはずなので、Aあたりに打つて攻めながら守るのが相場かと思つていたが、黒21と引いたのである。普通なら三引きは後々の負担になるもので、できるだけ引かないものだ。

ただ、結局黒25でここに打つたので、21は結局後で打つ場所ではある。しかし、それを先に打つてしまうの

も今までにない発想だ。



白32までの局面は、もちろん黒が勝てない形勢になつているが、ここから白が勝つのも難しい。中村名人はここでは焦っているように見える。白34と四を使つてしまったのはもつたいたなく、白44では一路広くAと打つのが盤の広さを生かした勝負手ではなかったか。黒45と広さを消されては満局の確率が大きくなり、そのまま引き分けとなつた。中山新名人にはとにかくおめでとうと言いたい。